



カリスマ先生に聞く！

日能研 新百合ヶ丘校 室長

黒川 蒼雄 先生

vol.2

幼児から小学生の学習のポイント

経験豊富な日能研のカリスマ先生が、保護者のみなさんの勉強に関するお悩みにお答えする連載の第2回。日能研 新百合ヶ丘校の黒川蒼雄先生に、夏休み明けの注意点と集中力を養う方法についてうかがいました。

保護者の
お悩み

夏休み明けは学習もだらだらしがち
集中力をつける方法は？



行き当たりばったりで過ごした子ほど、夏休み明けがだらけがちに

夏休み明けの子どもたちを見ると、無計画に行き当たりばったりで勉強している子と、この時間は勉強する、遊ぶと予定を立てて、メリハリのある生活をしている子では、やはり違うんですね。夏休み明けにだらけてしまうというも、無計画に過ごした子に多くみられるように感じます。

いつでも勉強できるということは、逆に言えば、いつでも後回しにできるということです。そういう習慣がついてしまうと、なかなか切り替えるのは難しい。親御さんは一日の中で、洗濯して掃除して、この時間に何をしようというのが経験でわかっていらっしゃるのに紙に書いたりしないでしょ。子どもはわからないですから、ある程度計画を立てて、やったら「がんばったね」と認めてあげる。この繰り返しが大事だと思います。

ガウディア生は、夏休み中も教室に通ってきていますので、学習リズムはそう崩れることはないと思いますが、心あたりの方は、今からでも遅くないので、ぜひ計画的に過ごすように心がけてみてください。



計画は子ども自身に立てさせて、学習時間は短時間で切り上げる

では、その計画をどのように立てるかですが、親が決めるのではなく、子ども自身が決めるようにしてみてください。「これをやりなさい」「あれをしなさい」は、言う方も楽だし、やる方も楽です。でも、人に言われてやっていると、やるのが目的になりがちです。せっかく学習するのに、「宿題やればいいや」ではもったいない。自分でこの科目をこれだけやるには時間はこれぐらい、という目標を立てて取り組んで、早く終わればそれでいいし、終わらなければプラス10分やる。そうして取り組んでいくと、自分でやったことに対する充実感も生まれてきます。

学習時間は長ければいいというものではありません。たとえば10問問題があって、1問目でつまずいて、ずっと考えて1時間という学習と、その1問目を飛ばして残り9問を解きましたという学習では、質が全然違います。その教科が得意、不得意でもかかる時間は違って来るでしょう。そういう目当てを考えて行動することは、上の学年になるほど必要なスキルで、また、勉強以外のことに通じるスキルでもあるのです。



日能研 新百合ヶ丘校 室長 黒川 誉雄 先生

指導歴 23 年。担当は算数。
「何のために勉強しているのか」という目的意識をもたせ、自主的に学習に取り組む姿勢を大事にするのがモットー。算数もなぜ・どういときにその公式を使うのか、根本からきちんと理解できるように指導を心がける。

- 日能研 新百合ヶ丘校 -

小田急沿線の日能研で最も伝統があり、30 年以上の実績をもつ。

子どもたちや保護者はもとより、スタッフ間のコミュニケーションを大切にし、一人ひとりを丁寧にバックアップ。4階建ての校舎には自習室を常設し、気軽に質問できる環境を整えている。カウディア教室を併設。

http://www.nichinoken.co.jp/np5/nnk2/branchdetail/index/kyoshitsu.php?site_code=EH



頑張った子に芽生える内面的な充実を、周囲の大人が肯定する。それが継続の原動力

頑張った子どもには、みんな充実感があります。それを認めてもらうと、また次も頑張れる。子どもが努力したことに対して、見守っている大人が肯定してあげることが、その努力を継続していくにはとても大事なことです。だって宿題をやってもやらなくても、どうせ親は見えてないし、と思えばやる気も出ないでしょう？

ですからどうかお子さんには、「今日、がんばったね」と声に出して伝えてあげてください。親子だと言葉をついで端折ってしまったり、やって当たり前と思っていることに対して、いちいち反応したりしないのではないのでしょうか。

でも、ことに小さいお子さんに対しては、ちょっとしたことでも「見てるよ」「わかっているよ」と口に出すことが、認めてくれているという安心感と、前に進む原動力になっていくのだと思います。



集中力は精神的な成長に伴うもの。5歳なら5歳なりの取り組みを

「うちの子、落ち着きなくて」「集中力がないからすぐに飽きてしまうんです」…こんな声を親御さんからよく聞きます。先ほど、学習は短時間で。時間ではなく、内容が大事だとお話しましたが、長時間、物事に集中することは、大人でもそうそうないように思います。ましてや小学生が集中して勉強するなんて、相当大変なことですよ。低学年なら20～30分くらいが限界ではないでしょうか。

子どもたちを指導していて、集中力は精神的な成長が伴わないと生まれてこないと感じるので、保護者の方には、お子さんの年齢を考慮しながら見守ってあげてほしいですね。5歳児なら5分でもいい。それを何十回も繰り返すうちに10分、20分になっていったりするでしょう。

プリントを1枚やるのがキツイなら、ここからここまでを何分とか、短い時間が区切ってメリハリをつけるのもいいですね。時間を区切ると、その時間の中で集中できます。自分が設定した時間で区切って取り組むのと、終わるまでがんばりなさいでは、同じことをやるのでも気持ちが違うでしょう？

時間を区切ってメリハリをつけ、やったことを周囲の大人がちゃんと認めてあげること。そうして内面的な充実感を育て、自分から取り組むようにはなっていけば、やがて集中して勉強できるようになっていくと思いますよ。



時には「自分のため」だと、時間をかけて伝えることも必要

そうはいっても、何をしても勉強に集中できないというときもあるでしょう。塾に来たけれど、落ち着いて机に座ってられない子もまれにいます。そうしたときは「人に迷惑をかけるからダメ」というよりも、「すべては自分のため」ということを伝えるのが必要です。

とくに年齢の低い子に遠回しに言うと、怒られたくないから言いわけを守るといふ行いになり兼ねません。それでは、その子自身が将来困ることになるので、時間がかかっても、どうしてそうすべきか、そうすることによって自分に何が得られるか、といったことをかみくだいて伝えたいと思います。

もちろん年齢によって使う言葉は、わかるように変えないといけません。親子だといふ感情的に叱ってしまう場合もあるでしょう。言葉でうまく伝えられないときは、「いつもがんばってるね。今日も〇〇をきちんとやろうね」と、手紙を書いてあげるのも効果的だと思います。ぜひ、いろいろな手だてを試してみてください。